



414
A2639

法律第 號

營業稅法

第一條



此稅法ニ稱スル營業トハ商業工業其他各種營利ノ業ヲ云フ

第二條

營業者ハ總テ此稅法ニ遵ヒ營業稅ヲ納ムヘシ

營業稅ハ定額稅及比例稅ヲ賦課シ若クハ單ニ定額稅ヲ賦課ス但其賦課

方法及稅率ハ別紙課稅例ニ據ル

第三條

左ニ掲ルモノハ此稅法ノ限外トス

一 農業者自己農業ノ收入又ハ土地貸附料ノ收入ニ係ル農産物ニ農

天大
限正
侯十
年
贈月

事上ノ加工ヲ爲シテ販賣スル者、自宅ニ於テ一家族限從事スル紡織業者、但各其物品ヲ販賣スル店舗ノ設ナキ者ニ限ル

二 他人ヲ使役セス販賣店ヲ設ケサル砂利土石採取人

三 漁業者、採藻業者、漁業者採藻業者ニ船器具等ヲ貸付ル者

四 土地家屋ヲ貸付ル者

五 官府若クハ公共ノ事務ニ服シ又ハ他人ニ常役セラレテ俸給ヲ受ル者

六 公認ヲ經タル慈惠場、私立學校、及其慈惠場學校ノ事務ニ服スル者

七 學術技藝ヲ教授スル者、他人ノ家ニ就テ遊藝ヲ指南スル者

八 神官、教務ニ從事スル者

九 醫師、獸醫、產婆、但藥局ノ設アルモノハ其藥局ニ調藥業ノ稅ヲ課ス

十 代言人、公證人

十一 著譯者、自己著譯ノ圖書出版人、書家、美術家、設計人、鑑定人、但店舗ヲ設ケサル者ニ限ル

十二 官府ヨリ發行スル印紙切手類ヲ賣捌ク者

十三 酒保ノ請負ヲ爲ス者、郵便物運送ノ請負ヲ爲ス者

十四 橋錢、道錢、渡錢、港錢、棧橋錢、燈臺錢、通河錢等ヲ取立ル者

十五 水先案内人、荷物其他ノ物品運搬夫、配送夫、車夫、馬丁、與丁、馭者、看

病夫、其他職工ト視做スヘカラサル勞役者

十六 湖川、港灣内ヲ限り運行スル日本形帆船一艘ヲ使用シテ自ラ漕

舟ノ業ヲ執ル者

十七 婦女又ハ年齡十六歲未滿六十歲以上ノ男子ニシテ他人ヲ使役

セス物品ヲ賃製スル者

十八 婦女ニシテ他人ヲ使役セス人ノ需メニ應シテ衣服ノ裁縫又ハ洗濯ヲ爲ス者

十九 他人ヲ使役セス掃除、夜警、森林耕地漁場其他ノ看守ヲ請負フ者又ハ飲用水ヲ運搬若クハ販賣スル者

二十 營業場ノ設ナキ理髮人、年齢十六歳未滿ノ旅藝人

廿一 廢疾ニシテ他人ヲ使役セス各種ノ遊藝又ハ雜藝ヲ爲ス者

廿二 一定ノ場所ニ於テセサル鍼灸採療治者

廿三 街頭ニ於ケル屑物買、研物師、磨物師、直シ物師、洗粉、磨砂、飲料物、食品附木、玩具、種物、苗物、襪、屑物販賣人、香具師、賣卜者、觀相者、觀世物師

歌舞音曲人、雜藝人

第四條

營業者ハ各其郡長又ハ市長ニ申出營業ノ登録ヲ請ヒ其登録證ヲ受ヘシ但旅商人、旅藝人ハ旅行先ノ郡長又ハ市長ニ申出登録證ヲ受ルコトヲ得旅商人、旅藝人ノ登録證ハ其年限リ有効ノモノトス一人ニテ二ヶ所以上ノ營業場ヲ設ル者ハ支店出張店タルヲ問ハス其營業場毎ニ所在郡長又ハ市長ニ申出登録證ヲ受ヘシ

第五條

營業者廢業ノトキハ其時々郡長又ハ市長ニ申出登録證ノ消却ヲ請フヘシ

第六條

營業者改名又ハ其住居若クハ營業場ヲ轉シタルトキ又ハ代替リ遺產相

續賣買讓與其他ノ事故ニ依リ營業主變換シタルトキハ其時々郡長又ハ市長ニ申出登錄證ノ更正ヲ請フヘシ
前項ノ場合ニ於テ其營業ヲ繼續シタル者ハ總テ前營業者ニ屬スル納稅上ノ義務ヲ繼承スルモノトス

第七條

營業者其登錄證ヲ亡失シタルトキハ郡長又ハ市長ニ申出更ニ之ヲ受ヘシ但手數料トシテ一通ニ付金十錢ヲ納ムヘシ
旅商人旅藝人其登錄證ヲ亡失シタルトキハ其旅行先ノ郡長又ハ市長ニ届出全年分ノ納稅メテ更ニ之ヲ受ヘシ但其亡失ニ係ル登錄證ヲ受タル郡長又ハ市長ヨリ之ヲ受ルトキハ更ニ納稅スルニ及ハスト雖モ前項ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

第八條

營業者ハ隨時相當官吏又ハ吏員ノ求メニ應シ其登錄證ヲ呈示スルノ義務アルモノトス

第九條

營業稅ハ左ノ期限ニ從ヒ年額六分一宛ヲ納ムヘシ但納稅者ノ便宜ニ依リ其年内ノ納稅ヲ前納スルコトヲ得

第一期	一月一日ヨリ二月末日迄	ニ係ル分	一月三十一日限
第二期	三月一日ヨリ四月末日迄	ニ係ル分	三月三日限
第三期	五月一日ヨリ六月末日迄	ニ係ル分	五月三日限
第四期	七月一日ヨリ八月末日迄	ニ係ル分	七月三日限
第五期	九月一日ヨリ十月末日迄	ニ係ル分	九月三日限

第六期十一月一日ヨリニ係ル分

十一月三日限

八

旅商人旅藝人ハ登録證ヲ受ルトキ其全年分ノ稅額ヲ納ムヘシ

第十條

新ニ開業シタル者ハ其登録證ヲ受ルトキ營業場若クハ住居ノ移轉又ハ營業ノ擴張變更ノ爲メ稅額増加シタル者ハ其増加ノトキ前條ニ從テ營業稅金ヲ納ムヘシ

第十一條

新ニ開業シタル者ハ其開業ノ月ヨリ課稅シ廢業スル者ハ次ノ納稅期ヨリ除稅スヘシ

營業場若クハ住居ノ移轉ニ依リ稅額ノ増加スヘキ場合ニ於テハ其月ヨリ增稅シ稅額ノ減少スヘキ場合ニ於テハ次ノ納稅期ヨリ減稅スヘシ其

他ノ場合ニ於テハ稅金額五分ノ一以上ノ増減アルニ非サレハ其年間既定ノ額ニ據置クヘシ

第十二條

每郡又ハ每市ニ營業稅調査委員若干名ヲ置キ調査委員會ヲ組織シ各營業者ノ稅額ヲ調査セシム但其定員ハ府縣知事之ヲ定ム

調査委員ハ其一半ヲ郡會議員又ハ市會議員ヨリ選舉シ一半ヲ營業者ヨリ選舉ス

第十三條

調査委員定數ノ外其定數ニ同シキ補闕員ヲ置キ闕員ノ補充ニ備フヘシ

第十四條

郡長又ハ市長ハ各營業者ノ納稅額調査案ヲ作り之ヲ調査委員會ニ付ス

九

ヘシ

第十五條

郡會議員又ハ市會議員ヨリ選舉スル調査委員ハ其郡會又ハ市會ニ於テ之ヲ互選スヘシ

營業者ヨリ選舉スル調査委員ハ每市又ハ每町村内ニ於テ露店商人又ハ旅商人ト同表内ニ屬スル者ヲ除キ其他ノ營業者三十名迄毎ニ一名ノ割ヲ以テ^市町村選舉人ヲ互選シ其選舉人中ニ於テ更ニ調査委員ヲ互選スヘシ

營業者ヨリ選舉スル調査委員ノ被選舉人ハ其郡市内ニ現住シ市制町村制ニ據リ市會町村會議員タルコトヲ得ル者ニ限ル

第十六條

調査委員ノ任期ハ四年トシ隔年其全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ退任者ヲ定ム其當籤者ハ二年ニシテ任期滿ルモノトス但補闕ニ係ル委員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十七條

調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

調査委員及補缺員ニ選ハレタル者被選舉人ノ資格ヲ失フタルトキハ直チニ退職者ト見做スヘシ

第十八條

調査委員會ハ郡長又ハ市長ヲ以テ其會長トス郡長又ハ市長缺席スルトキハ其事務代理ノ資格ヲ有スル者之ニ代ルヘシ

第十九條

調査委員會ノ決議ハ出席委員過半数ノ同意ニ由ル可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ由ル
調査委員自己又ハ父母兄弟妻子ノ營業ニ關スルトキハ其議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十條

調査委員會ハ郡長又ハ市長ノ招集ニ依テ之ヲ開ク
調査委員會ハ會員過半数出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡長又ハ市長更ニ期日ヲ定メテ招集スヘシ
第二次ノ招集ヲ爲シ出席者過半数ニ至ラサルトキハ郡長又ハ市長第十二條ノ調査ヲ爲スヘシ

第二十一條

調査委員會閉會ノ後新ニ課税又ハ増税減税スヘキ營業者アルトキハ郡長又ハ市長第十二條ノ調査ヲ爲スヘシ

第二十二條

府縣知事ハ調査委員會ノ調査又ハ第二十條第三項及第二十一條ノ場合ニ於ケル郡長又ハ市長ノ調査ニ據リ各營業者ノ税額ヲ定メテ之ヲ達スヘシ

第二十三條

營業者其税額ヲ不當トシ訴願セント欲スルトキハ其達ヲ受タル日ヨリ二十日以内ニ證憑ヲ具ヘテ府縣知事ニ訴願スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ヲ不當トシ更ニ訴願セント欲ルトキハ其處分ノ達ヲ受タル日ヨリ二十日以内ニ大藏大臣ニ訴願スヘシ但本項ノ事件ニ就テハ大藏大

臣ノ處分ヲ以テ終結トス
 營業者自己ノ怠慢ニ基因シテ賦課セラレタル税金ニ對シテハ第一項ノ
 訴願ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ訴願中營業稅納期ニ際スルトキハ其達ヲ受タル金額ニ據リ其
 期ノ税金ヲ納ムヘシ若シ府縣知事又ハ大藏大臣ノ處分ニ依リ税金ヲ減
 セラレタルトキハ次ノ納稅期ニ於テ納ムヘキ金額中ヨリ其減額ヲ引去
 ルヘシ其税金ヲ免除セラレタルトキハ既納ノ稅金額ヲ還付スヘシ
 第一項ニ依リ府縣知事ニ訴願スルトキハ郡長又ハ市長ヲ經由シ大藏大
 臣ニ訴願スルトキハ府縣知事ヲ經由スヘシ

第二十四條

郡長又ハ市長調査委員會ノ議決ニ關シ意見アルトキハ之ヲ府縣知事ニ

具申スルコトヲ得

第二十五條

府縣知事第二十三條ノ訴願又ハ第二十四條ノ具申ヲ受タルトキハ之ヲ
 府縣參事會ニ付シテ審査セシメ其議決ニ據リ處分スヘシ若シ其議決ヲ
 不當トスルトキハ大藏大臣ノ裁決ヲ受ケ處分スヘシ
 府縣參事會員自己又ハ父母兄弟妻子ノ營業ニ關スルトキハ其審査ニ與
 ルコトヲ得ス

第二十六條

郡長又ハ市長ハ各營業者ノ納稅額取調ニ關シ必要アルトキ又ハ他ノ郡
 長又ハ市長ノ囑托アルトキハ其要件ヲ納稅者ニ推問シ又ハ其他ノ者ニ
 諮問スルコトヲ得

調査委員會又ハ府縣事務會各營業者ノ納稅額調査ニ關シ必要アルトキハ其營業者ニ推問スルコトヲ得

第二十七條

營業者中特ニ業況微小ニシテ府縣知事ニ於テ納稅ニ堪ヘスト認ルモノアルトキハ其稅金ヲ減免スルコトアルヘシ

第二十八條

府縣知事又ハ郡長市長課稅上必要アルトキハ營業者ノ營業場其他課稅ノ標準ト爲ルヘキ物件及稅額査定上參考ト爲ルヘキ物件ヲ檢査セシムルコトアルヘシ但其主任タルノ證憑ヲ携帶セシムヘシ

第二十九條

無能力者又ハ營業者ノ旅行中又ハ死跡相續人未定中ノ營業ニ就テハ其

管理人數人共同ノ營業ニ就テハ其共同連名人會社ノ營業ニ就テハ其社務ヲ管理スル者此稅法ニ關スル諸般ノ責ニ任スヘシ

第三十條

第四條ノ登録證ヲ受スシテ營業シタル者ハ其營業ニ對シ賦課スヘキ稅金高ノ三倍ニ相當スル罰金若クハ科料ニ處ス

第三十一條

第六條第一項又ハ第七條ニ違フ者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十二條

此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十三條

此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

十八

附則

第三十四條

島廳ノ管轄ニ屬スル諸島ニ於テハ此税法中郡長トアルヲ島司ニ適用ス

第三十五條

此税法ハ明治二十二年 月 日ヨリ施行ス

北海道沖繩縣東京府管轄小笠原島及伊豆七島ニ於テハ當分此税法ヲ施行セス

第三十六條

府縣參事會ヲ設ル迄ノ間ハ第二十五條ニ掲ル府縣參事會ノ審査ヲ要セス府縣知事直チニ其處分ヲ爲スヘシ

第三十七條

郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ此税法中市長トアルヲ郡長又ハ區長ニ適用シ每町村内トアルヲ戶長役場所轄内ニ適用シ郡會市會議員ヨリ選舉スル調査委員ヲ設ケス

十九

課税例

第一項 營業稅ハ下ニ掲ル各表ニ從ヒ毎年之ヲ賦課ス但第一表乃至第十一表及第十三表ニ屬スルモノハ其營業場ノ異ル毎ニ各別ニ課稅スヘシ

第二項 左ノ場合ニ於テハ定額稅ノ最モ多額トナルヘキ一ノ業目ニ就テ課稅スヘシ若シ其額ヲ同フスルトキハ主ナル業目ニ就テ課稅スヘシ其他ノ兼業ニ在テハ業目ノ異ナル毎ニ各別ニ課稅スヘシ

一 同一ノ營業場ニ於テ第一表乃至第十表ニ屬スル業ヲ兼營スルトキ

二 同一ノ人ニシテ第十二表若クハ第十四表ニ屬スル業ヲ其各表中ニ於テ兼營スルトキ

第三項 前項ノ場合ニ於テ其税ノ最モ多額トナルヘキ業目若シ兼業中ノ最小部分ニ屬スルトキハ定額税ノ第二若クハ第三ニ位スル業目ニ就テ課税スヘシ

第四項 前各項ノ場合ニ於テモ資本金高船舶積量線路哩數馬匹數船車肩輿ノ數ニ應スル税金ハ別ニ之ヲ賦課スヘシ

第五項 前各項ノ場合ニ於テ其兼業ノ各種ニ屬スル從業者ハ總テ其課税スヘキ業目ニ併算スヘシ但其各種ニ屬スル從業者ニ判明ノ區別アルモノハ其業目毎ニ之ヲ算スヘシ

第六項 比例税ハ其定額税ヲ課スヘキ業目ニ就テ之ヲ賦課スヘシ但兼業ノ各種ニ屬スル建造物又ハ所用地ニ判明ノ區別アルモノハ各其業目ノ區別ヲ以テ之ヲ賦課スヘシ

第七項 若シ一場内ニ於テ二種以上ノ定額税ヲ賦課スヘキ兼業ヲ爲シ其各種ニ屬スル建造物又ハ所用地ニ判明ノ區別ナキトキハ其主ナル業目ニ就テ比例税ヲ賦課スヘシ

第八項 營業場所屬ノ建物又ハ所用地ニケ所以上ニ在ルトキハ各其所在地ニ就テ比例税ヲ算スヘシ

第九項 工業者其製造品ヲ工場内ニ於テ販賣セス別ニ販賣場ヲ設ルモノ又ハ其工場外ニ於テ別ニ自家ノ工業ニ要スル物品ノ製造場ヲ設ルモノハ營業場ノ附屬ト見做ヘシ但其製造場ハ自家ノ工業ニ用ユル物品ノミヲ製造スルモノニ限り販賣店ハ自家ノ製品ノミヲ販賣スルモノニ限ル若シニケ所以上ノ販賣店ヲ設ルモノハ最モ其工場ニ接近セル一ヶ所ノミヲ附屬ト見做ヘシ

第十項 營業者常設ノ商品陳列場ノ類ニ出店シテ營業スルトキハ其所用ノ部分ヲ營業場ノ附屬ト見做ヘシ

第十一項 定リタル店舗ナク商品陳列場ノ類ニ出店シテ營業スル者ハ自己所用ノ部分ヲ以テ其營業場ト見做ヘシニケ所以上ニ出店スル者ハ定額税ノ最モ多額トナルヘキケ所ヲ營業場ト見做シ其他ハ附屬ト見做ヘシ

第十二項 下ニ掲ル各表中ノ從業者ハ家族雇人タルト弟子見習タルトヲ間ハス營業者ニ常役セラル、者ハ總テ之ヲ算スヘシ

第十三項 第一表乃至第六表ニ屬スル營業ニ在テハ特別ナル技能ヲ要スル從業者設ヘハ賣買取引約定汽機運轉事物鑑定設計測量又ハ學藝上ノ事務其他業務ノ整理ニ從事スル者ハ其名義ノ如何ヲ間ハス總テ

重役支配人手代監督簿記計算ニ從事スル者ト同一ニ見做ヘシ

第十四項 左ニ掲ル從業者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ其端數ハ切捨ヘシ

- 一 年齡十六歲以上六十歲未滿ノ家族
- 二 年齡十六歲未滿六十歲以上ノ雇人
- 三 婦女但第九表ニ屬スルモノヲ除ク

第十五項 左ニ掲ルモノハ從業者ノ數ニ算セス

- 一 營業者及其配偶者、配偶者ナキトキハ其同居家族中ノ一名
- 二 營業者ノ家族ニシテ年齡十六歲未滿六十歲以上ノ者
- 三 營業者年齡七十歲以上又ハ未丁年又ハ婦女ニシテ其家族ニ丁年以上七十歲未滿ノ男子ナキトキ其業務ヲ管理スル一名ノ雇人
- 四 營業者自ラ其業務ヲ執ラサル營業場ニ於テ常ニ其業務ヲ管理ス

ル一名ノ雇人

二五六

五 會社ノ社長頭取若クハ其他ノ名義ヲ有スル一名ノ社務管理者

第十六項 二名以上共同ノ營業ナルトキハ其共同者ヲ總テ從業者ノ數

ニ算スヘシ

第十七項 下ニ掲ル各表中所用建物ト稱スルハ營業者ノ住居及ヒ營業

ニ屬スル一切ノ建造物ヲ云フ

第十八項 營業者其營業場内ニ住居セサルトキハ其營業場ノ建物中工

場倉庫物置廐舎ノ類ヲ除キタル建坪十分ノ三ニ當ル坪數ヲ一切ノ建

坪數ニ加ヘテ比例稅ヲ算スヘシ會社若クハ數人共同ノ營業ナルトキ

モ亦同シ

第十九項 造船業者工業者坑業者請負業者特ニ其役夫ノ寢室ニ供用ス

ル爲メニ設ケタル建物ハ比例稅ヲ賦課セス

第二十項 建物ノ坪數ヲ算スルニ二階ハ十分ノ三三階以上ハ十分ノ五

ヲ扣除ス又一坪未滿ノ端數ハ切捨ヘシ

第廿一項 第一表乃至第十一表ニ屬スル營業者ノ專用ニ係ル物揚場物

置場興行場ニシテ建物外ニ在ルモノハ其十坪ヲ以テ一坪ノ建物ト見

做シ天幕又ハ日光ヲ遮蔽スルニ止マル所ノ假屋及造船業者專用ノ船

渠ハ其五坪ヲ以テ一坪ノ建物ト見做ヘシ

第廿二項 下ニ掲ル第六表乃至第十四表ノ定額稅中課稅等級ヲ規定ス

ル營業地方ノ等差ハ左ノ如シ

一 等地方	東京	大阪	橫濱	神戸				
二 等地方	京都	長崎	新潟	仙臺	名古屋	廣島	熊本	及ヒ
	人口五万以上ノ地							

二二七

十六等	十五等	十四等	十三等	十二等	十一等	十等	九等	八等	七等	六等	五等
六〇	一一〇	一八〇	二四〇	三〇〇	三九〇	四八〇	六〇〇	七二〇	九〇〇	一一四〇	一五〇〇
六〇	九六	一四四	一八六	二四六	三一二	三九六	四六八	五五八	七〇二	八七六	一一五二
六〇	九〇	一三二	一七四	二二二	二八二	三五四	四二〇	四九八	六一八	七七四	一〇〇八
四八	八四	一二〇	一六二	一九八	二五二	三一二	三七二	四三八	五三四	六七二	八六四
四八	七八	一〇八	一四四	一八〇	二二二	二七〇	三二四	三七八	四五〇	五七〇	七二〇
四八	六〇	九〇	一二〇	一五〇	一八〇	二一〇	二四〇	二八二	三三〇	四二〇	五二〇

四等	三等	二等	一等	等
二二〇〇	三〇〇〇	四二〇〇	六〇〇〇	一五〇〇
一六〇二	二二八〇	三二五〇	四五〇〇	一一五二
一三九八	一九八六	二七三〇	三九〇〇	一〇〇八
一一九四	一六九二	二三一〇	三三〇〇	八六四
九九〇	一三七八	一八九〇	二七〇〇	七二〇
六九〇	九六〇	一二六〇	一八〇〇	五二〇

第廿三項 前項地方ノ等差ニ依リ賦課スル定額税ノ等級及税額ハ左ノ如シ

三等地方 府縣廳所在ノ地及ヒ人口二万五千以上ノ地

四等地方 人口一万以上ノ地

五等地方 人口五千以上ノ地

六等地方 人口五千未滿ノ地

第廿四項 地方ノ等差ニ屬スル區域及人口ノ多少ニ依テ定ムル地方ノ等差ハ大藏大臣ノ訓令ニ依リ府縣知事ノ告示ヲ以テ確定ス但大藏大臣ハ其人口少キモ特ニ營業ノ景況盛ニシテ他ノ地方トノ比準ニ於テ之ヲ高等ニ組入ルヲ至當ト認ル地方アルトキハ其一等ヲ繰上ルコトヲ得

第廿五項 府縣知事ハ其管内ニ於テ營業ノ景況他ノ同等地ト同率ノ稅ヲ課シ難シト認ル地方アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ其次等ニ繰下ルコトヲ得

第廿六項 一市街ト視做サルヘキ土地ニ於テハ町村名ノ異同ヲ問ハス總テ其一區域内現住ノ人口ニ依リ地方ノ等差ヲ定ム

第廿七項 劣等地方ニ於テ營業スル者ト雖モ高等地方接近ノ地ニ在リ

テ其營業ハ主トシテ高等地方ノ需用ニ應スルモノナルトキハ其高等地方ニ在ル者ト同一ニ見做ヘシ

第廿八項 下ニ掲ル各表中比例稅ノ課率ニ用ユル建物ノ敷地賃貸價格ノ階級ヲ分ツコト左ノ如シ

一級敷地	一ヶ年一坪ノ賃貸價格一圓八十錢以上ノモノ
二級敷地	八十錢以上ノモノ
三級敷地	三十錢以上ノモノ
四級敷地	五錢以上ノモノ
五級敷地	五錢未滿ノモノ

第廿九項 敷地賃貸ノ價格ハ貸借者契約上ノ價額ニ依ル自己ノ所有地又ハ無賃借入等ニ係リ契約上ノ價額ナキトキ若クハ契約上ノ價額ヲ

不當ト認ルトキハ近傍類似ノ敷地賃貸價額ノ比準ヲ以テ之ヲ定ム若シ類似ノ敷地ナキトキハ特ニ其價格ヲ定ムヘシ

第三十項 營業場若クハ其所屬ノ一構内ニ於テ土地ノ賃貸價格ヲ異ニスルトキハ其平均價格ヲ以テ階級ヲ定ムヘシ

第三十一項 水上ニ於テ營業場ヲ設ルモノハ其陸地ニ於ケル敷地ノ最も多數ナル階級ヲ適用シテ比例稅ヲ算スヘシ

第三十二項 營業者ノ營業名及從業者ノ員數建物又ハ土地坪數敷地賃貸價格其他課稅ノ標準ハ調査委員會之ヲ査定ス

第三十三項 下ニ掲ル各表中ニ明記ナキ營業者ニシテ府縣知事課稅スルヲ至當ト認ルモノアルトキハ大藏大臣ノ指揮ヲ受ケ類似セル營業ノ稅率ヲ適用シテ課稅スヘシ

第一表 本表ニ屬スル營業者ニハ資本金高及從業者ノ員數ニ對スル定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級並ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス

支店出張店ノ稅額ヲ算スルニハ資本金ノ率ヲ用ヒス資本金ハ總テ本店ニ於テ算スヘシ

一定ノ資本金ヲ備ヘサル營業者ハ本表ニ屬セス第七表ニ屬ス

業名	定額		比例				
	資本金高一萬圓迄毎二	從業者一人毎ニ	建物五坪又ハ其端數毎ニ	一級敷地	二級敷地	三級敷地	四級敷地
日本銀行	一、二〇〇	六、〇〇	六、〇〇	四、八〇	三、〇〇	一、八〇	一、〇〇
正金銀行	一、二〇〇	六、〇〇	六、〇〇	四、八〇	三、〇〇	一、八〇	一、〇〇
國立銀行	一、二〇〇	六、〇〇	六、〇〇	四、八〇	三、〇〇	一、八〇	一、〇〇
私立銀行	九六〇	六、〇〇	六、〇〇	四、八〇	三、〇〇	一、八〇	一、〇〇
銀行類似業	九六〇	六、〇〇	六、〇〇	四、八〇	三、〇〇	一、八〇	一、〇〇
保險業	九六〇	六、〇〇	六、〇〇	四、八〇	三、〇〇	一、八〇	一、〇〇

第二表 本表ニ屬スル營業者ニハ其所有線路哩數使用馬匹數及從業者ノ員數線路修繕築造ニ係ル役夫ヲ除クニ對スル定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級並ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス但甲乙二ヶ所ノ停車場又ハ車馬繼場ヲ聯絡セサル副線ハ之ヲ哩數ニ算入セス

支店出張店又ハ停車場ノ稅額ヲ算スルニハ線路ノ率ヲ用ヒス線路ハ總テ本店ニ於テ算スヘシ

停車場ニ於ケル從業者ニ對スル定額稅及ヒ停車場待合所ノ建坪ニ對スル比例稅ハ各其所在地ニ於テ之ヲ賦課スヘシ

業名	定額		比例	
	馬匹一頭	從業者一人毎ニ	建物五坪又ハ其端數毎ニ	稅
鐵道運輸	汽車	六〇	一、八〇	九六
	馬車	六〇	一、八〇	九六
其他	其過數毎ニ	六〇	一、八〇	九六
	從業者一人毎ニ	二、四〇	一、八〇	九六
	一級敷地	四二	一、八〇	九六
	二級敷地	四二	一、五〇	九六
	三級敷地	四二	一、二〇	九六

第三表

本表ニ屬スル營業者ニハ其所用船舶ノ積量及從業者ノ員數ニ對スル定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級並ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス

支店出張店ノ稅額ヲ算スルニハ積量ノ率ヲ用ヒス積量ハ總テ本店ニ於テ算スヘシ

倉庫船ハ積量ノ率ニ算セス其陸地ニ於テ最高級ノ敷地ニ設ケタル建物ト同一ニ見做シ比例稅ヲ算スヘシ

湖川港灣内ヲ限り運用スル船及航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船短艇ノ類ハ本表課稅ノ率ニ算セス

船舶ノ積量ヲ算スルニ西洋形船ハ噸ヲ以テシ日本形船ハ石ヲ以テスヘシ

積量十噸未滿ノ汽船二十噸未滿ノ西洋形帆船五百石未滿ノ日本形船
 乗組員ハ船長會計方等ノ名稱ヲ有スルモ水夫舟子等ト同一ニ見做ヘ
 シ
 海上運輸ノ業ヲ爲ス者ヲ甲種水運トシ其定期ノ航海ヲ爲スモノヲ第
 一類トシ定期ノ航海ヲ爲サルモノヲ第二類トス
 湖川又ハ港灣内ヲ限り運輸ノ業ヲ爲スモノハ乙種水運トシテ第四表
 ニ屬ス

業名	定額		從業者一人毎ニ	比例				
	第一類	第二類		敷一 地級	敷二 地級	敷三 地級	敷四 地級	敷五 地級
汽船	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一三二	九六	六〇	三六
帆船	九〇	九〇	二四〇	二四〇	一八〇	一二〇	八四	六〇
日本形船	一二〇	一二〇	一八〇	一八〇	一三二	九六	六〇	三六
西洋形船	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一三二	九六	六〇	三六

第四表 本表ニ屬スル營業者ニハ普通課額及從業者ノ員數ニ對スル定
 額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級并ニ建坪數ニ應シテ比例
 稅ヲ課ス

六馬力以上ノ蒸汽器械ヲ使用スル諸製造者ヲ甲種工業ノ第一類トシ
 六馬力未滿ノ蒸汽器械ヲ使用シ又ハ三十坪以上ノ建物内ニ於テ水車
 ヲ使用スル諸製造者ヲ甲種工業ノ第二類トシテ本表ニ屬シ其他ノ工
 業ハ乙種又ハ丙種トシテ第六表第八表ニ屬ス
 乙種水運業ハ汽船ヲ使用スルモノヲ第一類トシ汽船ヲ使用セサルモ
 ノヲ第二類トシ無汽罐ノ小船五艘以下ヲ使用スルモノヲ第三類トス
 積量十噸未滿ノ汽船二十噸未滿ノ西洋形帆船五百石未滿ノ日本形船
 乗組員ハ船長會計方等ノ名稱ヲ有スルモ總テ水夫舟子等ト同一ニ見

業名		普通課額	從業者一人毎ニ	建物五坪又ハ其端數毎ニ
甲種工業	第一類	二四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、四四〇
	第二類	九、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇八〇
電燈	請負	六〇、〇〇〇	三、〇〇〇	七二〇
	請負	六〇、〇〇〇	三、〇〇〇	四八〇
瓦斯燈	請負	六〇、〇〇〇	三、〇〇〇	二、四〇〇
	請負	六〇、〇〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇
乙種水運	第一類	四、二〇〇	三、〇〇〇	二、四〇〇
	第二類	一、八〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇
	第三類	九〇〇	三、〇〇〇	一、二〇〇

第五表 本表ニ屬スル營業者ニハ普通課額及從業者ノ區別並ニ員數ニ

對スル定額稅ヲ課シ所用建物ノ坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス
 造船業ハ汽船ヲ造ルモノヲ甲種トシ西洋形帆船又ハ積石數五十石以上ノ日本形船ヲ造ルモノヲ乙種トシ無汽罐ノ西洋形短艇又ハ積石數五十石未滿ノ日本形船ヲ造ルモノヲ丙種トス
 坑業ハ金屬及石炭ヲ採掘スルモノヲ甲種トシ其他ノモノヲ乙種トス

業名	普通課額		從業者一人毎ニ		比例稅
	甲種	乙種	甲種	乙種	
造船業	甲種	六〇、〇〇〇	三、〇〇〇	四八〇	九〇
	乙種	一一、〇〇〇	一、八〇〇	四二〇	四八
	丙種	三、〇〇〇	〇、〇〇〇	三〇〇	三〇
坑業	甲種	三〇、〇〇〇	二、四〇〇	三〇〇	九六
	乙種	六、〇〇〇	一、〇〇〇	三〇〇	四八

第六表 本表ニ屬スル營業者ニハ營業地方ノ等差ニ應スル課稅等級ト
 從業者ノ數トニ從テ定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級并
 ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス
 十坪以上三十坪未滿ノ建物内ニ於テ水車ヲ使用スル諸製造者及一定
 ノ工場又ハ販賣場製造品貯藏場ノ類ヲ有スル諸製造者ヲ乙種工業ト
 ス

業名	課稅等級	從業者一人毎ニ		建物五坪又ハ其端數毎ニ				
		從業者一人毎ニ	雇工其他ノ勞務者	一級敷地	二級敷地	三級敷地	四級敷地	五級敷地
乙種工業	十三等	一、八〇	三〇	一、〇八	七八	四八	三六	二四
土工請負	九等	二、四〇	三〇	二、一六	一、六八	九〇	四二	三〇
建築請負	九等	二、四〇	四二	二、一六	一、六八	九〇	四二	三〇

第七表 本表ニ屬スル營業者ニハ營業地方ノ等差ニ應スル課稅等級ト
 從業者ノ數トニ從テ定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級并
 ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス

雜事請負	印刷	定時刊行				諸物品配達
		一回以上	二回以上	三回以上	十回以上	
十一等	十一等	七	十	十二	十四	十一
二、四〇	二、四〇	一、二〇	九〇	九〇	六〇	一、二〇
三六	三〇	三〇	二四	二四	二四	三〇
一、四四	二、一六	二、一六	二、一六	二、一六	一、二〇	一、四四
一、二〇	一、八〇	一、二〇	一、八〇	一、八〇	七八	一、二〇
七二	一、二〇	九〇	九〇	九〇	四八	七二
四二	七二	四八	四八	四八	三六	四二
三〇	三六	三六	三六	三六	二四	三〇

陸	運	八	等	一、二〇	一、八〇	一、二〇	六〇	三六	一八
內國	商品	仲	買	十二	等	一、二〇	九〇	五四	三〇
舶	來	品	仲	買	六	等	二、四〇	一、〇八	七二
設	書	様	式	手	形	類	仲	買	
魚	鳥	獸	物	生	間	屋	九	等	二、四〇
諸	問	屋	七	等	二、二〇	一、四四	九〇	五四	三六
荷	預	庫	十	等	二、四〇	一、二〇	七二	四八	三六
金	貨	預	替	六	等	三、三〇	二、一〇	一、四四	一、二〇
爲	換	兩	替	六	等	三、三〇	二、七〇	一、四四	一、二〇
兩	替	屋	十三	等	二、四〇	二、四〇	一、八〇	一、二〇	九六

第八表 本表ニ屬スル營業者ニハ營業地方ノ等差ニ應スル課稅等級ト

從業者ノ數トニ從テ定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級並ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス
 一定ノ工場又ハ販賣場製造品貯藏場ノ類ヲ有セサル諸製造者他人ヲ雇使シ若クハ一定ノ工場ヲ有シテ物品ヲ賃製スル者十坪未滿ノ建物内ニ於テ水車ヲ使用スル者ヲ丙種工業トス

業名	課稅等級	從業者一人毎ニ	比 例						
			建物	五坪又ハ其端數	每ニ	一級敷地	二級敷地	三級敷地	四級敷地
丙種工業	十五等	円三〇	六〇	四二	三〇	一五	一二		
洋服賃製	十二等	六〇	一、四四	一、二〇	八四	六〇	四八		
西洋洗濯	十三等	四二							
染物	十二等	四二							
洗張	十五等	三六	一、二〇	九〇	六〇	四二	三〇		

製代	寫真	印刷	物品賃貸	雇人	雇工	金銭貸借	土地	雜賣	諸物品	公軍用品	裝
圖書	業	出	馬車、 馬、除、 馬、除、	受宿	入世話人	借世話人	賣買借世話人	引受	製造世話人	用達	潢
	十一等	十二等	十三等	十四等	十三等	九等	九等	八等	十四等	九等	十四等
	一、二〇	六〇	四二	六〇	六〇	一、八〇	一、二〇	九〇	九〇	一、八〇	四二
	二、四〇	一、〇八	一、二〇	一、二〇	四八		二、一六		一、〇八	二、一六	
	一、八〇	七二	九六	九六	四二		一、六八		八四	一、四四	
	一、二〇	四八	七八	七八	三六		一、二〇		六〇	一、二〇	
	八四	三六	四八	六〇	三〇		七二		四二	九〇	
	六〇	二四	三〇	四八	二四		三六		三〇	六〇	

理	湯	一定ノ場所 ニ於ケル所	接 入 描
髮	屋	賣 相 ト	骨 齒 畫
十五等	十四等	十五等	十四等
三六	三六	〇	六〇
九六	一、二〇		六〇
七二	八四		四八
六〇	六〇		三六
三六	三六		二四
二四	二四		一八

第九表 本表ニ屬スル營業者ニハ營業地方ノ等差ニ應スル課稅等級ト
 從業者ノ數トニ從テ定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級並
 ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス
 溫泉宿ハ宿泊人ニ對シ木賃ノ名義ヲ以テ賄料ヲ受ルモ宿屋ノ稅ヲ課

業名	課税等級	定額	從業者一人毎	建物五坪又ハ其總敷毎ニ				
				一級敷地	二級敷地	三級敷地	四級敷地	五級敷地
芝居茶屋	九等	一、二〇	一、二〇	二、一六	一、四四	九六	七二	六〇
待合茶屋	九等	一、二〇	一、二〇	二、一六	一、四四	九六	七二	六〇
遊船宿	十五等	四二	四二	一、〇八	八四	六〇	三〇	一八
客間飲食店	十一等	九〇	九〇	二、一六	一、六八	一、〇八	六六	三〇
料理屋	八等	一、二〇	一、二〇	二、四〇	一、八〇	一、二〇	七二	三六
汽船宿	八等	六〇	六〇	二、一六	一、四四	九〇	六〇	三六
汽船川乗客荷物取次	十一等	六〇	六〇	一、四四	一、二〇	七八	四二	二四
汽船乗客荷物取次	十一等	六〇	六〇	一、四四	一、二〇	七八	四二	二四

相撲茶屋	十四等	六〇	六〇	八四	六〇	四八	三六	二四
引手茶屋	八等	一、二〇	一、二〇	三、〇〇	二、四〇	一、八〇	一、三二	一、〇八
貸坐敷	三等	一、二〇	一、二〇	六、〇〇	四、八〇	三、六〇	二、六四	二、一六
藝妓稼宿	八等	〇	〇	二、一〇	一、八〇	一、五〇	一、二〇	九〇
遊技場	十二等	六〇	六〇	一、二〇	九〇	六六	四二	二四
遊園	十三等	六〇	六〇	一、二〇	九〇	六六	四二	二四
茶店	十五等	四二	四二	八四	六〇	四二	二四	一八
休憩所	十五等	四二	四二	八四	六〇	四二	二四	一八
氷紙新紙	十四等	六〇	六〇	一、〇八	八四	六〇	三六	二四
居酒屋	十四等	六〇	六〇	一、〇八	八四	六〇	三六	二四
貸馬場	十五等	四二	四二	三六	三〇	二四	一八	一二
車馬立場	十五等	四二	四二	三六	三〇	二四	一八	一二

牛	木
馬	賃
宿	宿
	十六等
	。

第十表 本表ニ屬スル營業者ニハ營業地方ノ等差ニ應スル課稅等級ト所用馬匹又ハ船車肩輿ノ數トニ從テ定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級并ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス

業名	課稅等級	定額稅		比例稅				
		所用馬匹一頭毎ニ	船車肩輿一箇毎ニ	建物五坪又ハ其端敷毎ニ	一級敷地	二級敷地	三級敷地	四級敷地
乘合馬車	十四等	三〇	〇	八四	七二	六〇	四二	三〇
乘用馬車賃貸	十二等	三〇	〇	一、二〇	九六	七二	六〇	四八
乘馬賃貸	十四等	三〇	〇	七二	六〇	四八	三六	二四
人力車賃貸	十四等	〇	一、二	七二	六〇	四八	三六	二四

荷車賃貸	肩輿賃貸	差違船賃	比例稅				
			十五等	〇	一、二	五四	四二
十五等	〇	一、八	五四	四二	三六	二四	一八

第十一表 本表ニ屬スル營業者ニハ營業地方ノ等差ニ應スル課稅ノ等級ニ從テ定額稅ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級并ニ建坪數ニ應シテ比例稅ヲ課ス

業名	課稅等級	比例稅				
		建物一級敷地	二級敷地	三級敷地	四級敷地	五級敷地
平均一人前ノ坐料及人場料金廿五錢以上	一等	六〇	五四	四八	四二	三六
全十五錢以上	二等	四八	四二	三六	三〇	二四

諸 興 行 七 等	寄 席 十 一 等	劇場		
		全十錢以上	全五錢以上	全五錢未満
		三、九〇	三、〇〇	一、八〇
		三、三〇	二、四〇	一、四四
		二、七〇	一、八〇	一、〇八
		二、一〇	一、二〇	七二
		一、五〇	六〇	四八

第十二表 本表ニ屬スル營業者ニハ各人別ニ營業地方ノ等差ニ應スル課税ノ等級ニ從テ定額税ヲ課シ所用建物ノ敷地賃貸價格ノ階級并ニ建坪數ニ應シテ比例税ヲ課ス
 年齢十六歳未満ノ營業者ハ税額ヲ半減ス
 營業上ノ慣行ニ依リ師家稼宿其他ノ家ニ寄宿スルモノハ比例税ヲ課

セス

業 名	定 額 税	比 例 税				
		一級敷地	二級敷地	三級敷地	四級敷地	五級敷地
能 樂 師	課 税 等 級 十 五 等	門六〇 三、〇〇	門五四 二、七〇	門四八 二、一〇	門三〇 一、八〇	門一八 一、四〇
俳 優	六 等	三、〇〇	二、七〇	二、一〇	一、八〇	一、四〇
講 談 者	十 三 等	二、一〇	一、八〇	一、五〇	九六	六〇
相 撲 行 司	十 四 等	九〇	七八	六〇	四二	三〇
相 撲 年 寄	十 四 等	九〇	七八	六〇	四二	三〇
遊 藝 師 匠	十 三 等	二、四〇	二、一〇	一、六八	一、〇八	七二
遊 藝 人	十 三 等	二、四〇	二、一〇	一、六八	一、〇八	七二
雜 藝 人	十 四 等	一、八〇	一、五〇	一、二〇	七八	四八

藝妓	娼妓	藝妓	娼妓
九等	九等	五等	五等
一、八〇	一、八〇	二、四〇	二、四〇
一、五〇	一、五〇	二、一〇	二、一〇
一、三〇	一、三〇	一、六八	一、六八
一、〇〇	一、〇〇	一、二〇	一、二〇
九〇	九〇	九〇	九〇

第十三表 本表ニ屬スル營業者ニハ營業地方ノ等差ニ應スル課税ノ等級ニ從テ定額税ヲ課シ所用建物ノ坪數ニ應シテ比例税ヲ課ス

業名	定額		稅額	比例	稅額
	課税等級	稅額			
屠畜場	五等	四八	四八	四八	一、八〇
火葬場	六等	四八	四八	四八	一、二〇

第十四表 本表ニ屬スル營業者ニハ各人別ニ營業地方ノ等差ニ應スル課税ノ等級ニ從テ定額税ヲ課ス
露店商人呼賣商人ハ一定ノ店舗ナキ者ニ限ル一定ノ店舗ヲ有スル者

露店ニ於テ物品ヲ販賣シ又ハ呼賣ヲ爲スコトアルモ總テ出賣ト見做ヘシ

職工ハ臨時他人ニ備役セラレ又ハ他人ノ物品ヲ賃製スルノミニシテ他人ヲ雇使セサルモノニ限ル
本表ニ屬スルモノハ假令弟子下職等ノ名義ヲ有スルモ總テ各自ニ營業税ヲ賦課ス

婦女又ハ年齢十六歳未滿六十歳以上ノ營業者ハ稅額ヲ半減ス

業名	定額	稅額
露店商人 呼賣商人 各種職工	十四等	十四等

第十五表

本表ニ屬スル營業者ニハ各人別ニ定額稅ヲ課ス

旅藝人トハ第十二表ニ屬スル所ノ業ヲ爲ス者ニシテ住居ヲ定メス常

ニ旅中ニ在テ營業スルモノヲ云フ

旅 旅 藝 商 人 人	業 名	定 額 稅
		三〇〇

營業稅賦課方法概要

大正五年十一月四日

營業稅ハ定額稅及比例稅ヲ以テ組織ス單一ナル稅率ハ賦課ノ公平ヲ得難キヲ以テナリ但
 同業中ノ業況ニ概シテ大小盛衰ノ差異ナキモノニハ單ニ定額稅ノミヲ課ス
 定額稅ハ普通課額及變動稅ノ二種ヨリ成立ツ但營業ノ種類ニ依リ或ハ變動稅ノ一種若ク
 ハ普通課額ノ一種ニ止ル定額稅アリ必シモ
 拘ラサ其普通課額ナルモノハ業況ノ盛衰ニ拘ラス同種ノ營業ナルトキハ皆同一ノ額ヲ課
 スルモノニシテ變動稅ナルモノハ營業ノ盛衰ヲ見ルニ足ルヘキ從業者ノ數其他資本金高
 線路哩數船舶積量馬匹船車等ノ數ニ應シテ増減スルモノナリ而シテ普通課額中營業地ノ
 如何ニ依テ利益ノ差異アル種類ノ營業ト營業地ノ如何ニ依テ特ニ利益ノ差異ナキ營業ト
 ヲ區別シ前者ハ營業地人口ノ多少ニ依テ稅額ノ等差ヲ設ケ後者ハ各地ヲ通シテ一率ニ之
 ヲ規定ス

比例稅ハ敷地賃貸價格ニ階級ヲ設ケ其階級ト家屋ノ建坪數トヲ見合セ以テ賦課スルノ方
 法トス敷地賃貸價格ノ高低ハ營業上ノ收益ニ關係ナキ種類ノ營業ニ在テ
 ハ敷地ノ階級ヲ問ハス單ニ建物ノ廣狹ニ應シテ比例稅ヲ賦課ス 全体家屋ノ賃貸

私

價格ニ比例スルトキハ最モ適當ノ課稅ヲ得ヘキモ本邦ニ於テハ今之ヲ施行シ難キカ故ニ
本按ノ方法ニ依ルモノナリ

定額稅比例稅ノ率ハ左ノ旨趣ヲ以テ之ヲ定ム

一 普通課額ハ各種營業ノ景況ニ應シ同一ノ業ヲ營ム者ハ何人ニテモ能ク負擔シ得ヘ
キ金額ヲ目途トシテ之ヲ定メ其業ノ盛大ナルニ從テ變動稅比例稅ヲ增加シ以テ各
人ノ實力ニ應スル課稅タラシム

二 變動稅ハ各種營業ノ實況ニ應シ從業者其他ノ標準物ニ對スル收益ノ多少ヲ斟酌考
量シテ各其率ヲ定ム

三 比例稅ハ營業ノ種類ニ依リ建物ノ廣キヲ要スルモノト否ラサルモノトノ別ニ應シ
又高價ノ敷地ニ在ルモノト低價ノ敷地ニ在ルモノトノ收益如何ヲ斟酌シテ其率ヲ
定ム但其敷地賃貸價ノ高低ハ營業ノ收益ニ關係ナキ種類ノ營業ニ在テハ敷地ノ階
級ヲ問ハス單ニ建物ノ廣狹ニ應シテ之ヲ賦課ス

各種ノ營業ニ對シ稅率ヲ設ルニ方リ營業名ノ明瞭ヲ要セントスルトキハ一切營業ノ種類
ヲ細別スルノ外ナシト雖モ今本邦商工業ノ狀況多クハ各種混淆雜駁ニシテ詳細ノ區別ヲ
爲シ難ク強テ之ヲ區別スルトキハ却テ其區別ノ爲メニ實行上ノ煩雜ヲ招クノミナラス被
稅者ニ在テモ却テ自己ノ業名ヲ定ムルニ苦ムカ如キ不便ナキヲ保セス故ニ成ルヘク簡易
ニシテ洩スコトナキヲ期スル爲メ左ノ二箇ノ目的ニ依リ業名ヲ區別ス

(一) 營業上現ニ世人ノ周知スル明瞭ノ區別アリテ成ヘク數多ノ業名ヲ包括シ而シテ其包
括ノ範圍モ既ニ世人ノ周知シ居ル名稱ヲ用ユルコト

(二) 業名ノ上ニ於テハ前項包括ノ範圍内ニ在ルモノト雖モ其業況他ノ同範中ノモノト趣
ヲ異ニシ稅率ヲ定ルニ方リ斟酌増減ヲ要スルモノハ特ニ其業名ヲ掲ルコト

凡百營業ノ實況ハ頗ル錯雜ニシテ萬種ノ營業ハ萬様ノ趣アリ一々其趣ク所ヲ逐ヒ細密ニ
法規ヲ制スルトキハ幾百万ノ被稅者ヲシテ徒ニ法律繁冗ノ弊ヲ被ラシムルコト勿論ナリ
然レトモ亦簡單ニ失スルトキハ被稅者ハ勿論課稅官吏ト雖モ其適從スル所ヲ知ラス實際

上却テ巨多ノ困難ヲ被ルヘシ故ニ本税法ノ組織ハ繁冗ニ流レズ亦簡單ニ失スルコトナキヲ勉メ而シテ營業者ノ權義ニ關スル要點及ヒ業名ノ區別稅額ノ算定方法等ハ成ヘク明ニ之ヲ掲ケ實地ノ應用ニ便ナラシメント欲ス

本邦現行ノ地方稅賦課法ハ概テ左ノ數種ニ外ナラス而シテ其方法ニ至テハ各地區々ニシテ且粗漏ヲ免レズ一モ則ルニ足ルモノナシト雖モ亦以テ本法制定ノ參考ト爲スニ足ルモノアラン

- (一) 單ニ營業ノ種類ニ應シテ一率ニ規定シタル稅金ヲ課ス
- (二) 管内ノ町村ヲ數級ニ分チ其階級ト營業ノ種類トニ依テ規定シタル稅金ヲ課ス
- (三) 管内各町村毎ニ營業種類ニ應スル一定ノ稅額ヲ課シ其町村内ノ協議ヲ以テ各人ニ分賦ス
- (四) 營業上收入金高又ハ資本金高等ノ多少ニ應シテ賦課スルコト
- (五) 建物ノ坪數ニ應シテ賦課ス

(六) 營業場敷地ノ地價及建坪數ヲ率トシテ課稅ス

(七) 助業者ノ員數ニ應シテ稅額ニ等差ヲ付ス

蓋シ營業稅賦課ノ方法ハ業體ノ盛否ニ依テ等差ヲ設ルカ又ハ從業者ノ員數器械工車ノ數營業場ノ廣狹ニ應スルカ又ハ收入金高ニ應スルカ若クハ每地方ノ營業人員ニ應シテ平均ノ額ヲ課シ各地ニ於テ委員ヲ設ケ之ヲ配賦セシムルカノ數種ニ出サルヘシ

然ルニ其配賦法ナルモノハ甲乙兩地配賦ノ割合ニ著シキ懸隔ヲ生シ實際營業ノ狀況ハ粗同一ナルモ甲地ニ在ルモノハ乙地ニ在ルモノニ比シ數倍ノ額ヲ課セラレ、等ノ不公平ハ到底免レサル所ナリ現ニ此法ヲ採レル普魯西ノ如キ商工業ノ組合法其他商工業監理ノ順序整備セルニモ拘ラス尙前述ノ不公平多シト聞ク況ンヤ本邦ノ現狀ニ於テヲヤ今假ニ此法ヲ採ント欲スルモ今日ノ場合ニ在テハ未タ各地方ニ於ル營業上ノ景況ヲ實際ニ調査セシコトナキヲ以テ其營業ノ種別ニ應スル平均課額ヲ定ムルコト能ハス各地每人ノ課額ニ稍平衡ヲ得セシメントスルカ如キハ迎モ望ムヘカラサル所ナリ故ニ此法ハ未タ遽カニ採

用スヘカラサルモノタリ

収入金高ニ應シテ賦課スルモノハ所得稅ヲ重複ニ課スルノ嫌アルノミナラス營業家ノ帳簿不完全ナル今日ニ在テハ迪モ各自ノ収入金高ヲ知ルノ途ナク現行所得稅調査ノ實況ト同一ノ結果ニシテ寧ロ所得稅ヨリ一層ノ煩勞ヲ増スニ至ルヘキヲ以テ此方法モ亦採用スヘカラサルモノタリ

工車ノ數機械ノ數ニ應スルモノハ凡百工業ノ種類及器械、工車ノ大小ヲ區別セサルヘカラス而シテ右等區別ノ爲メニ實際ノ不公平ヲ生シ且其法律煩雜ニ涉リ被稅者課稅官吏ト俱ニ其煩勞ニ耐サルニ至ルヘシ

本邦營業者ノ狀況ハ一店舗内ニ於テ數種ノ物品ヲ混同販賣シ又ハ商業ト工業トヲ併營スルモノ多シト雖モ尙其大体ノ區別ハ之ヲ爲スニ難カラス又其營業ノ大小ハ營業種類ニ依テ粗固有ノ區別アリ故ニ實際上明瞭ナル普通ノ區別ニ據リ前ニ掲ル方法ヲ以テ課稅シ其普通課額ノ不公平ハ變動稅比例稅之ヲ補ヒ三者互ニ相待テ各營業者ノ實況ト相伴フコト

ヲ得セシメント欲ス而シテ此方法タルヤ課稅ノ標準ハ悉ク有形ノ事物ニ取リ彼ノ所得稅法ノ如ク無形ノ事物ヲ穿鑿シテ稅額ヲ定ムルモノニ非ス且其標準ノ事物繁多ニ亘ラス其員數ノ如キモ僅少ノ差異ハ強テ之ヲ問ハサルノ精神ナルカ故ニ實際上極メテ簡易ニ施行シ得ヘシト信シ本稅賦課ノ方法ヲ茲ニ定ムルモノナリ

營業稅ノ賦課法ニ係ル各國ノ概例ハ本法制定上最參照ヲ要スルヲ以テ聊之ヲ左ニ掲ク

佛蘭西ハ確定稅變動稅ヨリ成立タル定額稅ト家屋賃貸價格十分ノ一乃至六十分ノ一比例稅トヲ賦課ス又其確定稅ニ營業ノ種類ニ依リ營業地人口ノ多少ニ應シテ増減スルモノト人口ノ多少ヲ問ハス一般ニ稅率ヲ規定スルモノアリ

澳地利ハ各種ノ營業毎ニ稅率ヲ八等乃至三等ニ區別シ營業者ノ雇人、機械ノ員數、資金ノ多少ニ應シ縣廳ニ於テ適當ノ等級ニ組入レ課稅ス但其營業ノ種類ニ依リ營業地ノ人口ニ應シテ稅額ヲ増減スルモノト全ク人口ニ拘ラス一率ノ稅ヲ課スルモノアリ

白耳義ハ主ニ營業ノ種類ニ依リ雇人ノ數又ハ工車ノ數器械ノ數、收入金高、製造原料高

其他總テ營業上課税ノ標準トナルヘキ物件ノ多少ニ就テ等級ヲ設ケ其等級ニ從テ課税
ス又人口ノ多少ニ應シテ税額ニ等差アルモノト人口ノ多少ニ拘ラス一率ノ税ヲ課スル
モノトアリ

八

普魯士ハ各地方ノ營業人ヲ一纏ニシテ一定ノ税額ヲ課シ其地ノ營業組合(或種ノ營業
ニ在テハ縣ノ課税委員)ニ於テ之ヲ各營業者ノ分限ニ應シテ配賦ス但人口ノ多少ニ應
シテ營業地ニ階級ヲ設ケ一定ノ税額ニ等差アルハ他ノ諸國ニ同シ
巴華里ハ頗ル細密ナル確定税變動税ノ二種ヨリ成立ツ而シテ其税ハ總テ人口ノ多少ニ
應シテ等差アリ